（様式1）

令和6年度　学力向上指導改善プラン

富士中学校長　奥　雅喜

学校教育目標			夢や希望をもち、目標に向かってたくましく生きる生徒の育成
推進主体			管理職と研究推進担当・兵庫型学習システム推進教員を中心に学力向上委員会を設置
学力に関する前年度の状況・経年の課題等			
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況（国語、算数・数学に関する質問調査の結果も含む）	国語	○「知識及び技能」の領域では、どの設問についても正答率が全国平均を上回っており、言語能力がしっかり構築できていると考えられる。 ○「書くこと」の領域については設問数が少ないものの、正答率が71.3%（全国63.2%）であり、全国平均を10ポイント近く上回るなど、成果がみられた。 ◆各領域とも、記述式の回答において、正答率がやや低く、無回答率がやや高くなる傾向がみられる。 ◆「文章中の叙述から要旨を把握する」問題については、正答率が73.3%（全国74.2%）であり、全国平均を0.9ポイント下回った。
		算数数学	○すべての領域で、全国平均を上回っている。「数と式」の領域では、正答率が73.1%（全国63.0%）であり、全国平均を10ポイント上回っている。 ◆「図形」領域の記述式問題では、無回答率が8.0%（全国24.7%）であり、他の問題よりも高い。 ◆「図形」領域において、「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる。」設問では、根拠となる知識・技能の理解は高いが、無回答率が8.0%（全国24.7%）と高く、それらを用いて記述することに課題がみられた。
	定期テスト、単元テストなどによる状況（各教科）		○定期テスト、単元テストに向けて、家庭学習に意欲的に取り組む生徒が多い。 ◆テスト結果については、学力の二極化が危惧される状況である。（経年）
	授業等からうかがえる状況（各教科）		○授業を真面目に取り組み、宿題や提出物もおおむね良好である。 ◆一問一答型の質問に対しては、積極的に答える生徒が多いが、自分の考えなどを聞かれる質問に対しては、答える生徒が限られている。
学力向上に係る学習習慣等の状況	全国学力・学習状況調査の質問の状況		◆「学校の授業時間以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」という問いに対して、30分以下と答えた生徒の割合が80%と高く、「全くしない」と答えた生徒の割合は25.3%であったことから、読書習慣が形成されていないと判断できる。 ◆「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」という質問に対し、「ほとんど、または全くいかない」と答えた生徒が約半数を占めており、生徒の図書室（館）離れが進んでいることがわかる。
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況		◆全校生徒を対象にした授業改善アンケートで、「宿題の量や難易度が自分に合っていない」と答えた生徒が全体の2割程度を占めた。
授業改善	・主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善 ・ICT機器を効果的に活用（クラウド環境を活かした授業実施等）		○授業の最初に本時の「めあて」を確認することで、見通しを持って授業に取り組むことができる生徒が増えた。 ◆振り返りの時間を授業内で確保することができず、生徒が自らの学びを振り返る機会がもてないことがあった。 ◆「個別最適な学び」のためのツールとしてのICT機器の活用は、朝学習にのみ留まっており、授業内での1人1台端末の活用に課題がある。
校内研修の状況・研	校内研究の状況		○「特別支援教育の視点を活かした、主体的対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり」を研究テーマとして、学習指導の工夫、授業改善に取り組んでいる。 ◆各教員の授業改善の取り組みを学校全体で共有する場を設定する必要がある。
	校内研修の状況		○長期休暇中に、ICTの活用など、指導力向上に関する校内研修を全職員を対象に行っている。
家庭・校種間連携	家庭・地域等の状況		○放課後に、「ひょうごがんばりタイム」（地域人材による指導）を実施している。また、地域の寺子屋を利用する生徒もいる。
	小・中における教科連携等の状況		◆学校園所連携交流会等において情報の交換は行っているが、合同での研修会の開催などの連携までには至っていない。（経年） ○小学校の教科書を職員室に設置し、小学校での既習事項を反映した授業づくりを進めている。

4月			2～3月	
学力向上に向けての重点的な目標	成果となる目標（指標となる数値等）	具体的な行動目標（成果目標達成のための具体的な手立て等）	年度末評価（今年度の成果と来年度に向けた課題等）	評価
特別支援教育の視点を活かした主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・全国学力・学習状況調査「質問調査」において、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の問いにおける肯定評価が全国平均を上回る。 ・全国学力・学習状況調査「質問調査」において、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」の問いにおける肯定評価が全国平均を上回る。 ・学校評価アンケートにおいて、「授業が分かりやすい」という問いにおける肯定評価が80%を上回る。	・「特別支援教育の視点を活かした、主体的対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり」を研究テーマとして、視覚支援などさまざまな支援を取り入れた誰もがわかる授業づくり、個々の資質・能力を高める個別最適化された指導、「何をどう学ぶか」を重視し、「見方・考え方」を働かせて、「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりに取り組む。 ・互見授業期間を設定し、教師間で意見交流を行う。 ・互見授業で共有した課題などをもとに、、校内研修を実施する。 ・授業のなかで「めあて」を確認する場と、それに対する「振り返り」を行う場を設定することを富士中のスタンダードとする。		
ICTを活用した授業の推進	・全国学力・学習状況調査「質問調査」において、「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の問いにおける肯定評価が全国平均を上回る。 ・全国学力・学習状況調査「質問調査」において、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の問いにおける肯定評価が全国平均を上回る。	・ミライシードやGoogleクラスルームなどの活用方法について、校内で研修を実施する。 ・ICTを活用した授業実践について、校内で共有を行い、教員全体の指導力向上を図る。 ・教員用の電子教科書がある教科については、積極的に電子教科書を活用する。 英語科・数学科における効果的な場面において、生徒用電子教科書を活用する。		
家庭学習の充実	・全国学力・学習状況調査「質問調査」において、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）」の問いにおいて、1時間以上の回答が全国平均を上回る。	・各教科で計画的に家庭学習の課題を与えるとともに、「家庭学習の手引き」を作成して家庭への啓発を行い、基礎学力の向上と家庭学習の習慣化のさらなる定着・充実を図る。 ・ドリルパークでの課題配布など、生徒の習熟度に応じた課題を設定し、個に応じた家庭学習の充実を図る。		
学力補充	・全国学力・学習状況調査の「知識に関する問題」において、全国平均を上回る。 ・全国学力・学習状況調査「質問調査」において、「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う」の問いにおける肯定評価が全国平均を上回る。	・「朝学習」においてドリルパークを活用し、生徒が自ら問題を選択できるようにし、個別最適化した学びを目指す。 ・テスト前や長期休業中に、学習相談を実施する。 ・放課後や長期休業中に、「ひょうごがんばりタイム（地域人材による指導）」を実施する。また、地域実施の「寺子屋」を案内し、指導者との連携を継続する。		
読書活動の充実	・学校評価アンケートにおいて、「生徒は読書をよくしている」という問いにおける肯定評価の割合が半数を上回る。 ・全国学力・学習状況調査「質問調査」において、「読書は好きですか」の問いにおける肯定評価が全国平均を上回る。 ・全国学力・学習状況調査「質問調査」において、「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」の問いにおける肯定評価が全国平均を上回る。	・4月や月の始めに朝読書を行い、読書習慣を定着させる。 ・生徒会図書委員会と連携し、読書活動の周知啓発を行う。 ・生徒会図書委員会と連携し、学級文庫の設置を行う。 ・総合をはじめとする各教科での調べ学習で図書館を活用し、学習センターとしての活用を図る。		
学力向上に向けた小・中連携の充実	・中学校区四校との連携を図り、中1ギャップを解消するとともに、「学校評価」アンケートにおいて、「学校生活が楽しい」と答える生徒の割合が80%を上回る。	・学校園所連携交流会を年間3回開催し、授業参観と共に、「学習指導」「生徒指導」「道徳・人権教育」「特別支援教育」の4部会で交流する。 ・小中一貫教育の推進に向け、カリキュラム連携に取り組んでいく。 ・全国学力・学習状況調査結果について、合同分析を行う。 ・オープンスクール・入学説明会の日に、小学校6年生を対象に体験授業等を行う。		